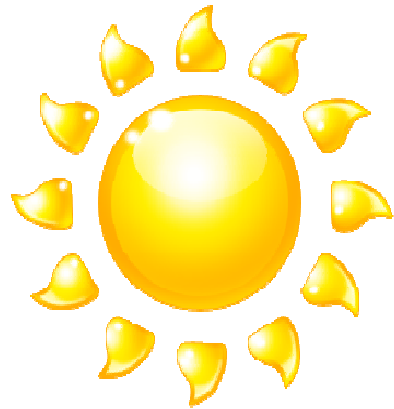




東北大学 大学院 環境科学研究科



環境経営 基礎学 — CSR戦略論 —

『SCMの動向と全体最適への アプローチ』

2012年5月26日

岡本 享二 (おかもと きょうじ)
ブレーメン・コンサルティング(株)



SCMの動向と全体最適へのアプローチ

・ SCM研究の背景と経緯

- CSR(企業の社会的責任)を追究していて、2007年ごろからSCMが主要課題として急浮上してきた。
- 文科省要請のCSR(SCMを含む)調査で欧米を3回訪問。
 - ・ 2009年にはSCMの調査で、当時HPのBonnie Nixon氏と会談
- 2010年にはISO26000でCSR=SRを発行。
 - ・ 中でもSCMが大きなテーマとなっている。
- 2011年に米国TSC(The Sustainability Consortium)のProf. Kevin Dooley, Dr. Greg ThomaとSCMに関して協議。
- 2012年にグローバルコンパクトの『サプライチェーンの持続可能性』の翻訳チームに参画、翻訳作業を完了。



今、なぜSCMか？

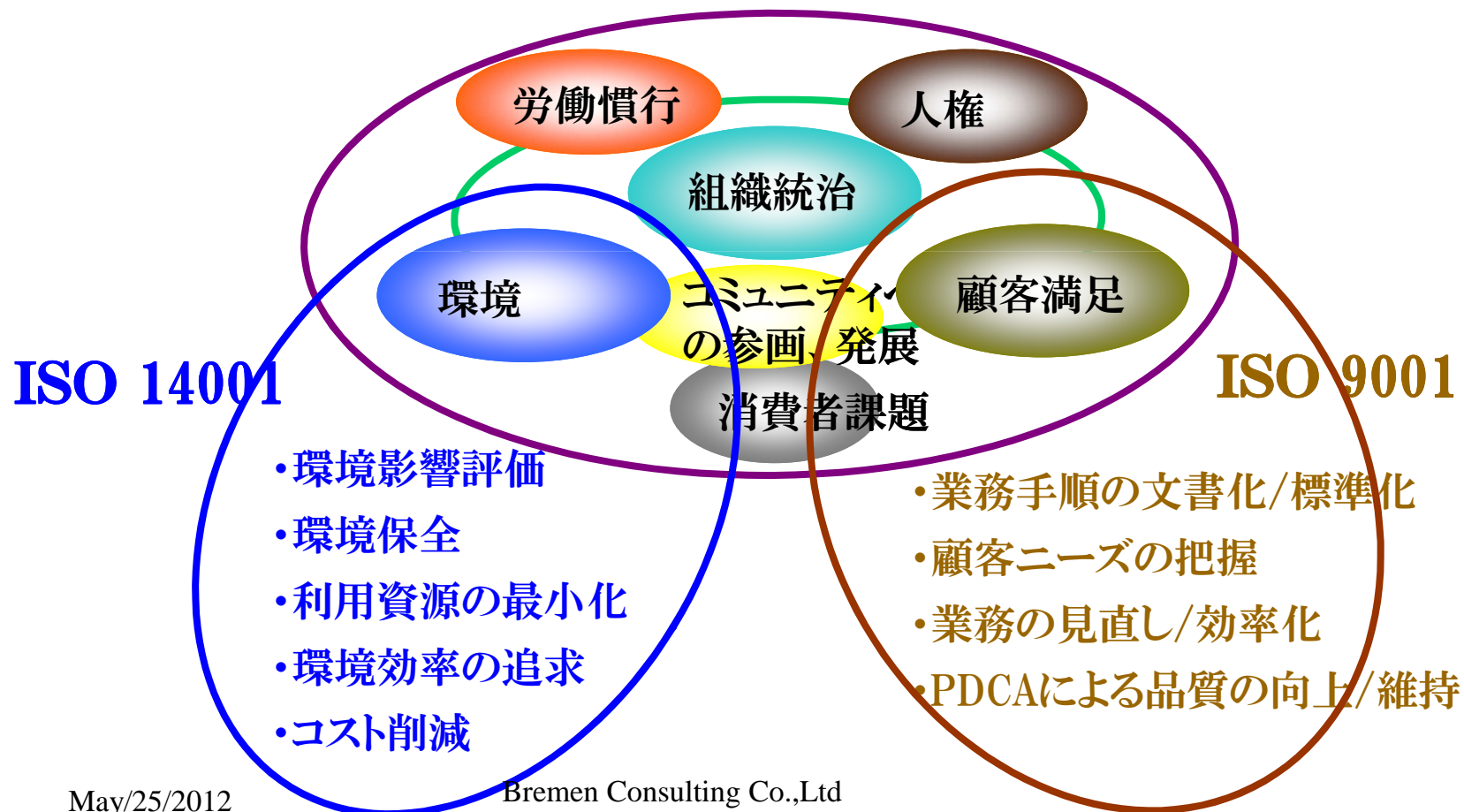
- 作っただけ売るメーカー主導の時代から
- **多様化、ITC**による消費者主体の時代へ
 - 消費者が求めているものを、
 - 求めている量、
 - 求めている時に、
 - なるべく安く提供できる体制が望まれる

SCMは今後の市場競争に勝ち抜くための、企業の必須要件となった。



ISO26000(SR)とISO9001/ISO14001 (マネジメント・システム)の関係

ISO26000と社会的責任の中核7課題





7つの原則

- ① 説明責任：
組織の活動によって外部に与える影響を説明
- ② 透明性：
組織の意思決定や活動の透明性を保つ
- ③ 倫理的な行動：
公平性、誠実であることなど倫理観に基づいて行動
- ④ ステークホルダーの利害の尊重：
様々なステークホルダーへ配慮して対応
- ⑤ 法の支配の尊重：
各国の法令を尊重し順守する
- ⑥ 国際行動規範の尊重：
法律のみならず国際的に通用している規範を尊重
- ⑦ 人権の尊重：
重要かつ普遍的である人権を尊重

サプライチェーンの持続可能性

環境的・社会的・経済的な影響は、
サプライチェーンの各段階を通じて存在する。¹



出典 国連グローバル・コンパクト「サプライチェーンの持続可能性」

SCMに取り組む意義

- ・ **リスクマネジメント**
 - 社会・環境問題にウエイトを置くマネジメントによってSCMは、企業の評判リスクに対処するのに役立つ。
- ・ **効率性の実現**
 - 自社の調達コストの削減。SCMによる環境負荷の削減。労働者の健康/モチベーション/生産性の改善。
- ・ **持続可能な製品開発**
 - 製品の持続可能性は、製品を差別化する要因となり、結果として販売が増大。
- ・ **持続可能な社会の実現へ**
 - SCMの追求は本来、社会の公正(世代間・世代内・種間の公正)を追求し持続可能な社会を実現する為のもの。

SCMの課題と提案

・ SCMの課題

- (1) 実行面：曖昧な法規制、末端への浸透は不透明
- (2) 制度面：曖昧な法規制、企業の自主的取り組み
- (3) 社会面：NGO/NPOとの関係、人権と“加担”

・ SCMへの提案

- SCMの追求は本来、社会の公正(世代間の公正・世代内の公正・種間の公正)を追求し、地球規模の持続可能な社会を実現する為のものである。現在のSCMの多くは企業の持続可能性のみが追究されている。
- SCMを効率的かつ正確に実行するためには一企業内、同業社間にとどまらず、可能限り大きなパイでの開発が望まれる。世界的なコンソーシアムの構築は必須。